

意志決定型社会科授業を創造するための授業評価モデル

—GTMA とポートフォリオを組み込んだ小学校社会科授業分析による評価—

Teaching Evaluation Model to Develop a Social Studies Class Focused on Decision-making:
Analysis of Social Studies Lessons in Elementary Schools by Incorporating GTMA and Portfolio
Evaluation

小野間 正 巳

(関西福祉大学)

キーワード：意志決定、グラウンデッド テキストマイニング アプローチ、ポートフォリオ、授業分析、授業評価

Key Words : Decision-making, GTMA, Portfolio, Teaching-Analysis, Lesson Analysis

I. 問題の所在と課題

これまで、原田⁽¹⁾が指摘するように、優れた意志決定型授業が数々なされたものの、その授業が意志決定型授業⁽²⁾であるということについての検証がなされていないことや授業構成理論の検証がなされてもその結果から新たな構成理論の展開がなされていないのが現状である。こうした実情を井上⁽³⁾は、『『授業モデル』^{*1}を実践するにあたり、個々の授業者が学習者の状況をどのように見取り、授業を展開していけば、その『授業モデル』の理念と合致したといえるのかという点での考察が不十分であった。』ことを指摘した。さらに、「このことにより、『優れた』授業を『授業モデル』にとどめ、『授業モデル』に関する研究成果と個々の授業者による授業実践とのつながりを困難なもの」にしてしまっていることを指摘している。また、岡田⁽⁴⁾は、構築型評価モデルにより、意思決定型社会科における子どもたちの社会認識形成過程について理論的な説明を試みた。その結果、社会構造の分析に伴う価値的葛藤によって、共感的な意思決定から脱却できたか否かが、飛躍とつまずきの分岐点となることを指摘した。続いて、岡田⁽⁵⁾は、社会科学学習評価に質的研究法 Grounded Theory Approach (GTA) を導入し、児童の社会認識形成過程を捉えるための方法論を提案した。この研究では、表出された発言や記述を体系的に整序して帰納的に積み上げていくために GTA を導入している。そこで、「オープン・コーディング」「軸足コーディング」「選択コーディング」を行うことで評価のための視点を提示し、その視点による評価を行うことで、授業改善の処方箋となり得ることを明らかにした。さらに、岡田⁽⁶⁾は、概念形成を志向した授業において、教師の意図とは違ったところで、つまずきがみられることから、手段や目標を捉え直しながら、子ども

もの実態に寄り添った授業設計や改善が必要であることを構築型評価モデルを使うことで、明らかにできることを提案した。このほか、齋木⁽⁷⁾は、有田和正『『駅弁包装紙』で戦争の授業』を事例に、質的研究と量的研究を手がかりとして、児童の学習をノートや感想文などの記録から分析し、それを量的に転換する授業分析の枠組みを提示した。その結果、授業分析の枠組みは、授業構成の有効性を実証するだけではなく、授業の成果から授業理論仮説の生成に利用可能であることを明らかにした。

また、土肥⁽⁸⁾は、市民的資質育成との関わりを大きくする社会科を考えた場合、意志決定型授業論が「社会認識を通して市民的資質を育成する」という社会科の目標を必ずしも達成していないと指摘する。その根拠として、社会事象についての真理性が保証された事実認識、正当性が保障された価値認識、両者を可能とする「意志決定」の原理がもつ学力形成の可能性を引き出すことができないためであるとしている。そこで、「自由な価値判断を重視する意思決定型の分析的批判学習」を提唱する。そして、開かれた社会認識形成をめざす社会科教育を主張する。

このように、多くの意志決定型社会科授業構成理論が提案されているにもかかわらず事実認識と価値認識が社会科授業を通してどのように学び取っていったのかの学びのプロセスは、研究対象として扱われることはなかった。したがって、児童の学んだ内容をどのような方法で授業者は分析し、評価していけば、社会認識形成の授業がなされたといえるかということについての分析・評価方法は提案されていない。しかも、現在の社会科教育においては、授業で習得した内容を分析し、その分析内容を基に授業を評価し、新たな授業構成理論の構築まで含めて問われているといえる。

本稿では、意志決定型授業を対象とした授業記録を元に、授業者と児童の発言や記述などの表現の内容から意志決定カテゴリーを指標とした授業分析を行う。その際、質的研究法と量的研究法を統合した「グラウンデッド・テキストマイニング・アプローチ」(Grounded Text Mining Approach 以下、GTMA)の手法とポートフォリオ分析による授業分析を行う。その成果をもとに、意志決定型小学校社会科授業を対象に、筆者の提案する意志決定カテゴリーを指標とした分析を行うことで、新たな授業評価モデルの一つを提案する。

II. 意志決定カテゴリーを指標とした授業分析

本稿は、授業における主に、授業者の発問と児童の発言を対象とした授業分析を行う。分析にあたっては、シャーマズ⁽⁹⁾の「構成主義的グラウンデッド・セオリー法」にテキストマイニング手法を取り入れた稲葉・抱井⁽¹⁰⁾、抱井⁽¹¹⁾が提案するGTMAに依拠した。この分析結果から、授業構想の検討と授業評価を行い、授業改善に生かす情報を抽出する。

1. 意志決定カテゴリーの定義

意志決定能力とは「解決しようとする問題についての事実認識や自他の価値認識を根拠とした事実判断・価値判断により、個人と社会の関係性に留意して決定する能力」と考える。意志決定カテゴリーとは「価値判断・未来予測をする基盤となる“価値認識”を上位とし、それを支える個々の社会事象に対する価値を下位とする概念の集合体」と考える。

そして、意志決定型授業の指標を「事実認識・価値認識」とし、授業における児童の発話及びポートフォリオを分析することによって、意志決定力(価値判断力・未来予測力)が育つ授業が構成されていたかが判断できると考える。本稿では、意志決定カテゴリーを岩田⁽¹²⁾がいう社会認識構造のうち「価値認識・未来予測」を上位カテゴリーとし、「事実認識・事実関係の知識(「記述的知識」「分析的知識」「説明的知識」「概念的知識)」を下位カテゴリーとした。なお、岩田⁽¹⁴⁾がいう「規範的知識」は、内容としては、価値に関することであり、本稿では「価値的知識」としてカテゴリー化した。

また、米田⁽¹³⁾は、「社会のしくみ」が「分かる過程(「探究Ⅰ」)で習得した知識や概念を総動員して「事実の分析的検討」を行い、価値判断、意志決定を行う(「考える過程」「探究Ⅱ」)社会科授業づくりの理論(授業構成理論)を提案した。

つまり、「探究Ⅰ」は、様々な社会事象を学び社会的概念を探究する過程であり、「探究Ⅱ」は、探究Ⅰで習得したことをもとにして、応用したり、事実の分析的検討を通して未来予測・価値判断をしたりする過程であるとする。

この考えに依拠することで、「社会のしくみ」を知る・分かるという「認識」と「認識」をもとに価値判断し、意志決定するという「学びの質」の違いを根拠にしたカテゴリー化が可能になると考える。本稿では、このような岩田、米田の考えに依拠して、記述的知識、分析的知識、説明的知識が習得される「探究Ⅰ」と「探究Ⅰ」で「習得」した知識を使って習得する「概念的知識」と価値分析や未来予測をする「探究Ⅱ」に分けて分析表を作成する。

2. グラウンデッド・テキストマイニング・アプローチ; GTMAについて

稲葉・抱井⁽¹⁴⁾、抱井⁽¹⁵⁾によれば、「このアプローチは、コンピューターによる言語処理や統計的分析による可視化と、研究者自身による解釈を併存させていること。」「研究者自身の主観性・感受性に基づく深い理解と、客観性を持った結果提示という、一見相反する2つの方向を統合することが可能。」である。そのプロセスは、次のSTEPからなる。

STEP1 テキストの読み込み。

分析対象のテキストデータを通読することによって、自身の感受性に基づいてテキストデータ全体に対する印象を形成したりデータ中の詳細な表現や言い回しについての確認を行ったりする。

STEP2 グラウンデッド・セオリー・アプローチに基づくデータ分析。

研究者とデータの相互作用によって「構築」される複数存在しうる現実の「ひとつ」に過ぎないという前提をとる。このアプローチのコード化では、それぞれの単語、行、出来事などに名前を付ける「初期段階のコード化(initial coding)」とデータを分類し、総合し、統合し、整理するために最も有意義で頻出するコードを見つけ出す相互好意的な「焦点化のためのコード化(focused coding)」が行われる。

STEP3 テキストマイニング手法に基づくデータ分析。

コンピューターを使い、計量的分析手法を用いてテキスト型データを整理または分析し、内容分析(content analysis)を行う。その際に、樋口⁽¹⁶⁾⁽¹⁷⁾の「KH Coder」による計量テキス

ト分析を用いる。この計量テキストの分析は、分析者が定義したパターンによってテキストを分類する内容分析「Dictionary-based アプローチ」と多変量解析のような関係性の可視化「Correlation アプローチ」という2つの手法を統合したものである。

STEP4 GTMAに基づく統合的分析。

STEP2及びSTEP3において述べた二つの分析の後、それらの結果に矛盾点・疑問点がなく、テキストで語られている内容の適切性について「データ分析」と「テキスト分析」の結果を比較検討する。何らかの矛盾点や齟齬があれば、テキストマイニングにおいて、品詞の範囲の変更、辞書の見直しなどを行う。さらに問題点が解消されない場合、コード化の段階まで遡り、データ収集の範囲を決めて分析をやり直す。

STEP5 新しい知識構築

STEP1～STEP4までにおいて分析したデータのそれぞれにおける疑問・矛盾などを整理する。

3. ポートフォリオ分析による意志決定カテゴリーの修正

児童が習得した学習内容は、社会事象に対する事実認識を根拠にして価値判断し、それを意味付けて価値認識としてポートフォリオに記述される。そこで、GTMAに基づく統合的分析(STEP4)と児童の学習を記録したポートフォリオ(ワークシートなど)に書かれた内容とを批判的に検討し、授業者の意図との関係进行分析する。発話だけではつかみきれない児童の社会認識をポートフォリオから読み取り分析することでより児童の習得した学習内容に近い情報の収集が可能となる。このポートフォリオ分析で明らかになった事柄を加味してカテゴリーの修正を行う。

本稿では、以上論じた理論をもとにして、授業記録を読み込み、発話内容を整理して活動分類と発言分類、計量テキスト分析を行い、それらの情報とポートフォリオ分析の結果とを統合した授業分析を行う。

Ⅲ. 授業分析プロセス

1. 指導案の目標分析

授業者が児童に学ばせたい目標・内容(資質・能力)をあらかじめ明らかにして授業を行うことで、効率的かつ確実な学習内容の定着が図られる。したがって、授業分析を行うにあたっては、あらかじめ目標分析を行い、授業者が意図した授業の分析・評価の視点を明らかにしておく。

この目標分析は、授業実施前に授業者が、現行

学習指導要領をもとに作成した授業構想(目標・内容)について、分析者が行う。この目標分析によって、授業者がその授業で意図した学習内容と実際の授業で表れた学習内容とを比較検討して授業を分析・評価することによって、授業設計そのものが児童の学習のプロセスに対する仮説としてのどのような意味を持つかが明らかとなる。

また、カテゴリーを指標とした授業分析を行う時に、意志決定カテゴリー表を作成することで、分析の方略を具体化し、授業評価・授業構築の論理が明らかになると考える。

2. GTMAによる授業分析

1) 授業記録の読み込み

授業をVTRに録画した授業記録から授業者と児童の発話を分けて逐語記録として書き起こす。書き起こした発話をデータ処理を行いテキスト化する。その際に、録音が不明瞭で曖昧な発話については、記録から除いた。テキスト化された授業記録を通読し、表記の適切さの確認や授業全体の印象をメモ書きする。発話が不鮮明な場合は、VTR記録を視聴し確認する。授業者の発話については、計量テキスト分析において使用した。

2) グラウンデッド・セオリーアプローチによるコード化

授業者と児童の発話データから授業者と児童の発話の中心となる単語を選択したり、選択した複数の単語の意味する行を選択したりして「初期段階のコード」として記述する。次に、単語と行から発話において最も頻出するコードを見つけ、「焦点化のためのコード化」を行い、これを発話者のもつカテゴリーとして分類する。

3) 計量テキスト分析

テキスト化した発話記録をコンピューターを使用し、計量的分析方法を用いて内容分析を行う「計量テキスト分析(KH Coder使用)」として、授業者と児童の「抽出語リスト」と「対応分析」を作成する。可視化された「抽出語リスト」及び「対応分析」について授業者と児童との発話についての関係进行分析する。その結果を整理し、新たな解釈をすることで、これまで見えてこなかった授業における新たな知見を導き出す。この知見を生かすことで意志決定のカテゴリーを修正することが可能となる。

4) GTMAに基づく統合的分析

これまでの分析内容を整理し、矛盾点や疑問点がないかを確認する。ここでは、指導案に書き込まれた授業者の意図をもとにして、分析内容と授業者の意図との矛盾について批判的に検討する。

5) 新しい知識統合

3 ポートフォリオ分析と意志決定 カテゴリーと分析結果の統合

長川⁽²²⁾は、米田⁽²³⁾の意志決定型社会科学学習における「政策提案」と「政策判断」という学年発達に応じた社会問題学習の方法と展開というて、「政策提案」と「政策判断」に化した授業構成理論を提案した。

このような意志決定カテゴリーを指標とした授業分析をもとに授業評価をするモデルを図1に示す。このモデルを使って、次のIV以降で意志決定型小学校社会科の具体的な分析を行っていく。

1. 分析対象授業の概要

① VTR による授業 1 時間分 (45 分) をビデオ録



②事価値認識・未来予測（認識）及び価値判断による意志決定の表現方法について、カテゴリーによる分析を行う。

この実態を踏まえ、授業時数10時間、単元目標を(1)店の見学を通して、店では売り方の工夫や努力をしていることや、自分たちの地域と他地域がつながっていることに気付く。(2)店の様子を

観察したり、店の人や買い物客にインタビューしたりして、必要な情報を集めたりまとめたりする。(3)店を見学する計画を立てたり、追究活動の方法を考えたりする。(4)店の様子を観察したり、店の人や買い物客にインタビューしたりしてわかったことをメモしたり、地図や文章にまとめたりするとした。単元計画を次に示す。

単元計画	
時	学習活動
I	買いものの調べたをまとめ気づいたことを話し合う。
II	スーパーマーケットを見学し、販売の仕事に関心や疑問をもつ。
III	見学したことを整理し工夫や努力について学習する課題を立てる。
IV	自分が調べたい店種を決め調べる計画を立てる。
V	店種別に見学し、課題を解決するための追究を行う。(本時6/10)
VI	同じ店を追究した仲間と、店の工夫について話し合い、店の特長をつかむ。
VII	異なる店種を追究してきた仲間と話し合い、店の工夫と客の願いとつながりを考える。
IX	販売の工夫や努力、消費生活のあり方について話し合う。
X	店長になるとしたら、どんな店を出すか提案し、追究してきたことを生かした広告ちらしを作る。

※授業者作成指導案より「学習活動」のみを筆者が抽出して記載

分析対象の授業は、6/10時であり、目標は、「個人で追究したり、同じ店種を調べた仲間と、店が行っている工夫について話し合うことを通して、それぞれの店の特長についてまとめることができる。」である。授業内容を次に示す。

学習活動
1、これまでの学習を振り返る。
2、本時の課題をつかむ。
3、話し合いの進め方について確認する。
4、自分が見学してきたことをまとめる。
5、同じ店種で調べた児童同士で話し合い分かったことや考えたことを、視点を押さえて表に表す。
6、活動を振り返り、次時への見通しをもつ。

※授業者作成指導案より「学習活動」のみを筆者が抽出して記載

2. GTMA による分析

1) 学習指導案の目標分析

授業実施前に授業者が作成した目標を分析した。ここでは、授業者がその授業で意図した学習内容と実際の授業で表れた学習内容とを比較検討して授業を分析・評価することによって、授業設計そのものが児童の学習のプロセスに対する仮説としてのどのような意味を持つかが明らかとなる。その際に、カテゴリーを指標とした授業分析を行うにあたり、長川⁽²⁰⁾の研究に依拠し、小学校3年

であることから米田⁽²¹⁾のいう「政策提案」に該当する内容を抽出して意志決定カテゴリー表を作成した。そこで、意志決定カテゴリーを社会科認識構造のうち「価値認識・未来予測」を上位カテゴリーとし、「事実認識・事実関係の知識(「記述的知識」「分析的知識」「説明的知識」「概念的知識)」を下位カテゴリーとして、単元目標を分析したものが次の表1である。この表をもとに、授業分析の方略を具体化し、意志決定カテゴリー分析を行う。

表1 指導案の目標分析 (筆者作成)

下位カテゴリー	学習指導要領に示されている習得させたい内容	指導案に表れている習得させたい内容
事実認識・事実関係の知識	記述的知識	○地域には販売に関する仕事があり、自分たちの生活を支えている。例；小売店、スーパーマーケット、コンビニエンスストア、デパート、移動販売など
	分析的知識	○地域の人々の販売に見られる仕事の特色。例；商品の品質管理、売り場での並べ方や値段の付け方、宣伝の仕方など
	説明的知識	○国内の他地域とのかかわり。例；商品の仕入れ、商業圏など
	概念的知識	○地域の一員としての自覚。○販売の特色と自分たちの生活、国内他地域との関連についての判断
未来予測・価値認識	価値的知識	○品質に見合った価格であれば消費者が納得すること。○販売者は、品質に見合う価格を提示する。○商店街や店は効果ある宣伝をする。
	価値判断による意志決定の表現方法	○消費者に受け入れられる店長としての提案○効果的な広告やチラシをつくる。

2) 授業記録の読み込み

VTR による授業記録を逐語記録として整理し、意志決定にかかわる児童の話し合いの場面に絞って抽出し、テキスト形式で記録し保存した。このテキストをKH Coderにより計量テキスト分析において使用した。

3) グラウンデッド・セオリーアプローチによるコード化

児童の話し合いの逐語記録を個々の児童ごとにGTMAによって分析した結果を表2に示す。「単語」の欄には、発話内容から内容の主旨と考えられる単語を抽出し記録した。「行」の欄には、発話の内容を発言の主旨やこれまでの学習履歴など

表2 児童の発話記録と発話記録のコーディング（筆者作成）

名前	児童の発話内容	単語	行	焦点化コード、カテゴリー
A	9時から20時頃に閉まります。そのための秘密は、魚屋さんだったら繁殖期のことを教えてくれることを知りました。葉屋さんに行ったら葉を売っていました。多くのお客さんは、小林商店という八百屋は、主婦と静岡大学の学生たちです。魚屋さんは、女性が30代から80代で、男性が70歳代くらいの人です。	秘密、繁殖期、葉屋さん、八百屋、魚屋さん、主婦、大学生	繁殖期のことを教えてくれる。	営業時間、客層
B	僕はコンビニに行きました。コンビニは商店と違って品数は少なかったです。特に売っているものはお弁当と飲み物とです。開いている時間が24時間です。僕とかが行ったコンビニは2時くらいにも大学生が来ます。	コンビニ、品数、弁当、飲み物、開いている時間、大学生	コンビニは商店と違って、開いている時間が24時間です。	商店との違い、開店時間、客層
C	ドラッグストアは、お店の大きさは大きくなって品物は多くて2万種類くらいあるそうです。それで主に売っているものは薬です。種類は多いです。スーパーより安いものが多いです。えっと営業時間は朝7時から夜11時で、お店の中に箱に何かあるのと、スーパーより種類が豊富です。えっと主に来る人はお母さんと主婦と静岡大学の人が近くにあるので大学生の人が多いです。秘密は、品数が多いです。	ドラッグストア、品数、種類、営業時間、主婦、大学生	お店の大きさは大きくて品物は多くて2万種類くらいある。営業時間は、朝7時から夜11時。スーパーより安い人が多い。	多種多様な販売品目、営業時間
D	ネットスーパーは、パソコンとかを使ってやります。レシピによってそのどんなことを教えてくれるんだよ。その人がなんかマクロとか買うじゃない。そしたら店員さんがそのマクロはなににするとおいしいですか。そういうことをしたいと思う。	ネットスーパー、レシピ	マクロは、どうすると美味しいか教えてくれる。	サービス提供
E	スーパーマーケットは、30円かわかんないけど、とにかくスーパーより30円は安かった。だいたい30円近く安い。もやしたかたぶん30円くらい安かった。ドラッグストアってスーパーより30円くらい安いって。	安さ	とにかくスーパーより安い。	価格競争
F	僕はコンビニエンスストアだと思います。えっとお酒を買う人は20歳ですが、20歳をこえてますかと聞いているから安心です。安心だから、お客さんのことを一番考えているのはコンビニエンスストアだと思います。	安心	お客さんのことを一番に考えている。	接客サービス
G	僕はネットスーパーだと思う。ネットスーパーは24時間営業で、スーパーマーケットよりも売っている品数が多い。	品数、24時間営業	スーパーよりも売っている品数が多い。	接客サービス
H	僕はネットスーパーだと思います。理由は家で物が買えるし、24時間やっているからです。	自宅で買える	家でも24時間買える。	接客サービス
I	僕はコンビニエンスストアだと思います。理由は24時間やっているし、買ったらすぐに食べれるからです。	24時間営業、近く	待たずにすぐに食べれる。	利便性
J	私はスーパーマーケットだと思います。駐車場が広い店のなか大きいからです。	駐車場、広い	駐車場が広い。	顧客サービス

K	私は商店街だと思います。専門のものが売っていてお話をしながら、「今日はこれがおすすすめ」などということがわかって、それでそういうものを買ったりして、お客さんがこういうのもやっの方がいいんじゃないかっていうのを、なるべく実行しようと思っているからです。	商店街、専門、実行	お話をしながら、お客さんが、こういうのをやった方がいいんじゃないかっていうのを、実行。	顧客との対話
L	私は、商店街で、ちょっと付け足しなんですけど、ほかのお店より話を聞いてくれて、それでいろいろ買いきからです。反対ですぐいけてもネットスーパーはおうちですぐ買えるからです。	商店街、すぐに買える	ほかのお店より話を聞いてくれる。	顧客との対話
M	僕はコンビニエンスストアです。理由は商品は少ないけれど100円になったり24時間体制になっているから人が多く来店すると思う。	安さ、24時間	人が多く来店する。	営業時間
N	僕はスーパーマーケットです。理由は近いし、毎日パーセントオフがあり、ATMもついていてとっても便利だと思います。	近い、オフ、ATM、便利	ATMもついていて便利。	利便性
O	私はコンビニエンスストアだと思います。24時間営業でカードが使えて、おやつが買っていくてすぐいろいろ買えてとっても便利ないろんなところにあるお店だと思います。	カード、役立つ	買ってすぐに食べられる。	利便性
P	ネットスーパーでお年寄りなどがいいと思います。外に出なくてすむので足腰弱いお年寄りなどがいいと思います。	年寄り、外出	外に出なくてすむ。	利便性
Q	こういうお客さんに、ためになりたいって、店員さんとか、そのお店の人が、思ったりすると、そういうふうにしたって思っ、それでそういう人に便利なところへ変わっていくから。	お客、店員、便利	ためになりたと思う。	信頼とサービス

から分析し、発話の要点を記録した。「焦点化コード」の欄には、「単語」「行」から読み取ったカテゴリーを記録した。

4) 計量テキスト分析

授業記録全体で、多く出現している言葉（頻出語）をリストアップしたものが次の（表3-1、表3-2）である。このリストでは、データ中で特に多く用いられていた頻出語句150種類をまとめた。児童の頻出語（表3-1）を見ると、名詞では、「人」（53回）「店」（36回）「スーパー」（21回）といった本時の学習の内容に関連する語句が多数出てくる。また、一般動詞「思う」（50回）「違う」（29回）「考える」（18回）も多く出現している。本時の学習内容に関する語句としては、この他に「お客」「ネット」「コンビニエンスストア」が「スーパーマーケット」が多く出現する。これは、本時の学習での発言に、これらの語句が出現

表3-1 頻出語リスト(児童) (筆者作成)

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
人	53	一番	9	便利	3
店	36	グループ	9	大学生	3
スーパーマーケット	33	種類	8	カード	3
コンビニエンスストア	18	時間	7	メモ	3
お客	17	安い	7	営業	3
ネット	17	紙	6	薬	3
ストア	11	主婦	6	料理	3
ドラッグ	10	年寄り	5	お母さん	3
商店	10	反対	5	パソコン	3
理由	10	秘密	5	品数	3
マグロ、家、学生、気付く、魚屋、苦手、姿勢、静岡大学、先生、専門、早起き、相談、遠因、届く、風、弁当、本、幼稚園、様子、旅行					2
A T M					1

表3-2 頻出語リスト(教師) (筆者作成)

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
人	33	丸	6	意見	3
店	26	グループ	5	一生懸命	3
お客	13	ネット	4	時間	3
スーパーマーケット	11	紙	4	水色	3
特徴	10	商店	4	全部	3
一番	7	カード	3	秘密	3
ドラッグ	6	コンビニエンスストア	3		
ひとつ、主、説明、相談、仲間、途中、二つ、病気、風、理解					2
4つ、5つ、ひとりごと、メモ、強いたい、早起き、帳簿、内容、便利、友達、料理、力					1

していることから、目標「異なる店種について調べた仲間と話し合うことを通して、それぞれの店の工夫と、利用する客の願いを関連づけて判断することができる」に達する授業となっているかを見通す材料となりえる。

また、教師の抽出語リスト(表3-2)からは、「人」(33回)「お店」(26回)「お客」(13回)が多く抽出された。このことは、児童の抽出語リストとほぼ一致することから、教師の発話が児童の発話に何らかの影響を与えていることが推測できる。次に、対応分析(図2-1、図2-2)では、出現パターンに取り立てて特徴のない語が、原点(0,0)の付近にプロットされる。原点から見て左上(第2象限)の方向にプロットされているほど本時の学習内容を特徴付けるといえる。

児童の対応分析(図2-1)では、「パソコン」「ネット」「スーパー」がこれにあたる。また、「本」「船」「商店」「弁当」が左下(第3象限)に

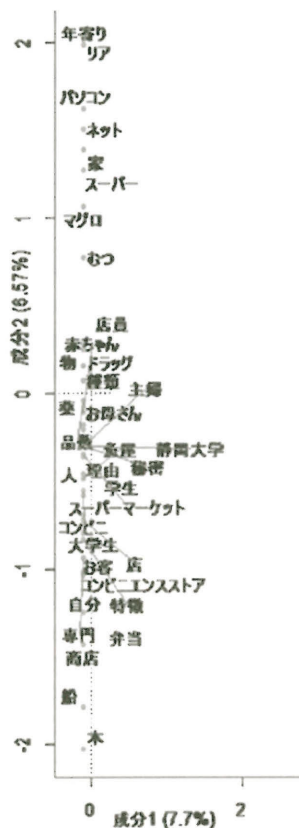


図2-1 対応分析(児童) (筆者作成)

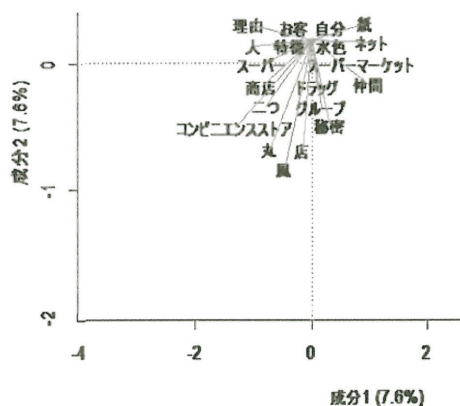


図2-2 対応分析(教師) (筆者作成)

あり、逆の考え方を示す意見であると推測できる。さらに、語句と児童の発言を率の高い語句を取り出して、表3「授業発話記録のコーディング」と合わせて、表4「カテゴリー分析」中の「単語(児童の発話)」欄に記載した。さらに、「児童の

表4 カテゴリー分析 (筆者作成)

意志決定 カテゴリー	授業者の意図 するカテゴリー	児童の発話カ テゴリー	単語 (児童の発話)
事実認識 事象関係 的知識	記述的 知識 分析的 知識 説明的 知識 概念的 知識	販売・購入 ・買い物 ・スーパーマーケット ・コンビニエンスストア ・商店街 宣伝 品質 価格 消費者 販売者	販売 多種多様な サービス提供 接客 利便性 営業時間
価値認識 価値関係 的知識	規範的 知識	品質 価格 消費者 販売者 商店街 宣伝	営業時間 客層 販売品目 価格競争 利便性 顧客サービス 顧客との対話
未来 予測 価値 表現 方法	価値判 断によ る意志 決定の 広告 チラシ	店長としての 観衆 広告 チラシ	利便性 顧客サービス

※ゴシック体はワークシートからの読み込みを示す。

発話カテゴリー」欄に焦点化コード(カテゴリー)から対応するカテゴリーを吟味して記載した。

授業者の対応分析(図2-2)では、原点(0,0)付近に多くプロットされることから、ほぼ授業者が意図した授業の流れに沿った発話であることが分かる。

5) GTMA による統合的分析結果の批判的検討

これまでの表や図において分析した内容にポートフォリオに書き込まれた内容を加えて表4にまとめ、授業者の意図とを批判的に検討する。

①商店活性化の秘密を探る対象のカテゴリー選択

児童は、「マーケット」「コンビニエンスストア」「商店街」「ネットスーパー」「ドラッグストア」という5つの商業形態について調べる活動により商店活性化の「ひみつ」としての要素として「営業時間」「客層」「販売品目」「価格競争」「利便性」「顧客サービス」「顧客との対話」の7つの焦点化コード(カテゴリー)を選択した。しかも、それぞれの店の長が単語欄やワークシートの記述に

も見られ、目標が達成できたことを示していることが分かる。しかし、授業者は、「営業時間」「利便性」「顧客サービス」「客との対話」については、予想できていなかった。このことは、児童たちの方がはるかに幅広い学習をしているということである。実際に、商店やストアに足を運び直接対話や見学などの体験を通して学んだことがこのような結果を示したといえる。

②商店街活性化への提案

授業者は、「店長としての提案」「広告」「チラシ」による商店街の活性化を児童が提案することを意図していた。しかし、児童は「利便性」「顧客サービス」を取り上げ、ほとんどの児童が、「駐車場の拡充」「サービス」を提案している。これは、児童が商店との関わりによって、商店にとって即時的・友好的対応策であり、消費者のニーズにも合うことを学び取った結果である。この児童の発話が、カテゴリー「利便性」「顧客サービス」を示すことは、児童が商店の活性化にとって大事だと考え、価値を見出し、商店への提案の内容を意志決定していることを示している。

また、授業者が当初意図した単元計画において示すねらいのうち「品質」「価格」「消費者」「販売者」「商店街」の4つは、同じカテゴリーを示す結果となった。しかし、「宣伝」については、児童たちの発言には見受けられないことから、授業者の授業支援において、「宣伝」にかかわる方略が必要であったといえる。

以上のことは、児童たちが自ら調べた内容が現行学習指導要領で示すことよりも幅広く、深く学ばれることを示唆しているだけでなく、商店やストアに対する提案内容への児童の意志決定に影響を及ぼしていることを示している。

V 意志決定カテゴリーと分析結果の統合による評価

1. 授業構想と実際との矛盾・疑問

表5は、授業構想で意図したカテゴリーとポートフォリオに記載された児童の考えや授業分析によって生み出されたカテゴリーとの比較をし、それぞれのカテゴリーの意味付けを行った表である。ここでは、「児童は、何を選択基準として店舗を選択したか。」について検討する。表5を解釈すると、「営業時間」「利便性」「販売品目」「価格競争」「顧客サービス」のカテゴリーをもとに選択の基準を決めていることが推察できる。

その結果、この授業においては、実際の身近な商店街を観察・見学して商店や商店街の「しくみ」

表5 分析によるカテゴリーの意味 (筆者作成)

授業構想で示すカテゴリーと意味		分析した授業のカテゴリーと意味	
カテゴリー	意 味	カテゴリー	意 味
品質	品質に見合った価格であれば消費者が納得すること。	営業時間	商店以外は遅くまで開いているので勤めていると便利
価格	販売者は、品質に見合う価格を提示する。	客層	夜遅いコンビニは大学生が多い。スーパーやドラッグストアは、さまざまな人。
消費者	商店街や店は効果ある宣伝をする。	販売品目	薬はドラッグストア
商店街	消費者に受け入れられる店長としての提案	価格競争	広告やチラシで知らせている。
宣伝	効果的な広告やチラシをつくる。	利便性	駐車場が広いと遠くの人買いに来る。ネットスーパーは便利かもしれないが商店街もほしい。
ポートフォリオに記載されたカテゴリーと意味		顧客サービス	ネットスーパーは普通のスーパーに売っていないものがある。客との対話
		利便性	駐車場を広くする
		顧客サービス	様々なサービス(ポイント付けなど)

※ゴシック体は、ワークシートからの読み込みを示す。

(社会のしくみ)を学び、習得した知識や概念を用いて商店街の分析的検討(事実の分析的検討)を行った。その結果を基にして、グループで話し合い、価値判断、意志決定を行い、児童は提案内容を意志決定をする際には、「利便性」「顧客サービス」をカテゴリーとして判断している。このことは、ポートフォリオに記載されている。また、授業者が、授業構想で意図したカテゴリーとは異なり、児童の事実に対する認識が授業者の予想を上回っていたと考えられる。したがって、児童たちの学習が広く・深くなされたことや家族の日常消費行動などをもとに自ら価値判断し、提案したといえる。さらに、児童が日頃から経験している商店に対する考えや学校での学習において他の児童との交流が行われることにより、児童の見方考え方が広まり、より多面的になったことが明らかになった結果であるといえる。

2. 新たな授業構想への視点

これまで得られた知見をもとに、新たな授業を構想するにあたって、事前に児童やその家族の日常消費行動、近隣の店舗の販売への取り組みについての児童の実態を把握する際の視点に「顧客サービス；営業時間や客層」を加えていきたい。この点は、現行学習指導要領には明示されていない。このことは、商店を中心とした商業活動が、近年、コンビニエンスストア、ドラッグストアに加えて、ネットを利用したものが参入してきていることを

児童は日常経験から知っているということである。さらに、「営業時間」が消費者の希望に合わせて24時間対応になってきたということである。また、「客層」が多様化してきているということも考慮すべきである。それは、鉄道やバスなどの公共機関を利用した消費活動から自動車利用へと広がり、駐車場が確保されていることや営業時間が24時間となることで、ショッピングモールやネット販売など、消費者のニーズに対応した様々な形態の商業施設が増加したことである。既存の商店街のよさや必要性和新しい商業施設との関係性に対応した単元構想が求められていることから現行学習指導要領で示されているカテゴリーだけでは十分ではないといえる。

VI 結論

本稿では、小学校3年生の意志決定型社会科授業を対象に、「GTMAとポートフォリオを組み込んだ授業評価モデル」を使った授業分析による授業評価モデルを提案した。この評価モデルは、意志決定カテゴリーを指標とし、質的な分析と量的な授業分析を統合した新たな授業評価論の構築を図った。その結果、次のような研究成果が得られた。

- ①児童が社会科授業を通して事実認識と価値認識をどのように学び取っていったのかを「授業評価モデル」を用いた授業分析を行うことで、児童の価値判断の過程を明らかにし授業評価の資料とすることができた。
- ②授業者が意図した児童に学び取ってほしい社会認識と児童のこれまでの学習によって得た社会認識とのずれを明らかにするには「授業評価モデル」が有効である。このモデルを用いて授業で習得した内容を分析・評価することによって、政策提案型の授業構成理論を構築する基礎となる意志決定カテゴリーが明らかとなった。

今後の課題としては、小学校及び中学校を視野に入れ、ポートフォリオ分析の方法論の開発に取り組むことである。そして、GTMAとポートフォリオを活用した「授業分析・評価モデル」による新たな授業理論の構築をすることである。

【注記・引用文献】

- (1) 原田智仁(2015)社会科教育研究スタンダードの構築に向けてー社会科教育実践学の視点からー『教育実践学としての社会科授業研究の探求』風間書房
- (2) 本稿では、意図的に「意志決定」の用語を使

- 用する。それは、単なる decision-making ではなく、考え、意見、目的、意志の決定過程を重視しているからである。
- (3) 井上奈穂 (2012) 社会系教科における授業者による学習評価の論理―「決定・判断」を基盤とした授業の場合―、鳴門教育大学研究紀要第27巻, pp.100-110. ※1 井上は、「優れた」授業の「授業モデル」として以下の論文を取り上げている。・上出正彦 (2007) 民間信仰に着目した高等学校日本史の授業開発と実践分析―「古代・中世の転換期と天神御霊信仰」を事例として―、社会系教科教育学研究第19号 pp. 47-54. ・市位和生 (2007) 児童の素朴概念を科学化・相対化する社会科授業― 小学校第6学年の単元「武士とは何か」の開発と分析を手がかりに―、社会科研究第66号, pp.31-40. ・吉田嗣教・内田友和・中野靖弘・吉田剛人 (2007) 児童たちが歴史的見方を意識できる社会科授業構成― 第6学年単元「政府・民衆にとっての世界進出」の開発を通して―、社会科研究第66号, pp.41-50. ・大庭潤也 (2008) 児童の「分かり方」を踏まえた小学校社会科授業モデルの構築―社会的構成主義に基づく単元開発を通して―、社会科研究第68号, pp.41-50. ・池野範男ほか (2008) 中学生の平和意識・認識の変容に関する実証的研究―単元「国際平和を考える」の実践・評価・比較を通して―、広島平和科学30, pp.71-93. ・土肥大次郎 (2009) 社会的意決定の批判的研究としての社会科授業―公民科現代社会小単元「市町村合併と地方自治」の場合―、社会科研究第71号, pp.41-50.
 - (4) 岡田了祐 (2014) 意思決定型社会科における子どもの飛躍とつまづき―構築型評価モデルによる児童の社会認識形成過程の分析―、社会科研究第81号, pp.39-50.
 - (5) 岡田了祐 (2014) 社会科学学習評価への質的研究法 Grounded Theory Approach の導入―社会認識形成過程における評価のための視点提示に関する方法と実際―、社会科教育研究 No.121, pp.91-102.
 - (6) 岡田了祐 (2015) 概念形成における一般化による切実性の意識化―構築型モデルによる子どもの社会認識形成過程分析―、社会系教科教育学研究第27号, pp.1-10.
 - (7) 齋木千尋 (2014) 質的研究と量的研究を取り入れた授業分析枠組みの検証―有田和正『駅弁包装紙』で戦争の授業―を事例として、評論・社会科学107, pp.21-54.
 - (8) 土肥大次郎 (2011) 社会的意決定の批判的研究としての授業―真理性と正当性を保障する意思決定型授業「原発政策」の開発―、社会系教科教育学研究第23号, pp.61-70.
 - (9) キャッシー・シャーマズ著、抱井尚子・末田清子監訳 (2011) 『グラウンデッド・セオリーの構築―社会構成主義からの挑戦―』ナカニシヤ出版
 - (10) 稲葉光行、抱井尚子 (2011) 質的データ分析におけるグラウンデッドなテキストマイニング・アプローチの提案―がん告知の可否をめぐるフォーカスグループでの議論の分析から―、政策科学第18巻3号, pp.255-276.
 - (11) 抱井尚子 (2015) 理論からストーリーへ―構成主義的グラウンデッド・セオリー法とは―、青山国際政経論集94号, pp.43-71.
 - (12) 岩田一彦 (2001) 『社会科固有の授業理論・30の提言―総合的学習との関係を明確にする視点』(社会科教育全書), 明治図書
 - (13) 米田豊編著 (2011) 『「習得・活用・探究」の社会科授業&評価問題プラン (小学校編)』, 明治図書
 - (14) 前掲(9)
 - (15) 前掲(10)
 - (16) 樋口耕一 (2014) 『社会調査のための計量テキスト分析―内容分析の継承と発展を目指して―』, ナカニシヤ出版
 - (17) 樋口耕一 (2006) 内容分析から計量テキストへ―2つのアプローチの峻別と発展を目指して―、大阪大学大学院人間科学研究科紀要, Vol.32, pp.1-27(18) 前掲(9)
 - (18) 長川智彦 (2015) 社会問題学習のカリキュラム構築に向けた小学校社会科の内容編成原理―学年段階に応じた社会問題の選択と学習展開―、社会系教科教育学研究第27号, pp.31-40.
 - (19) 米田豊 (2012) 「社会的判断力」育成の授業をいかに構想し、実行するか、第29回鳴門社会科教育学会研究大会シンポジウム配布資料、鳴門教育大学
米田は、このような児童の事実認識をもとに様々な提案をすることを、「政策提案」と名付け社会的判断力を育てる必要な要素と押さえ、「提案すること」すなわち自らの考えを表明することによって「意志決定」がなされることを提案した。
 - (20) 前掲(18)
 - (21) 前掲(19)